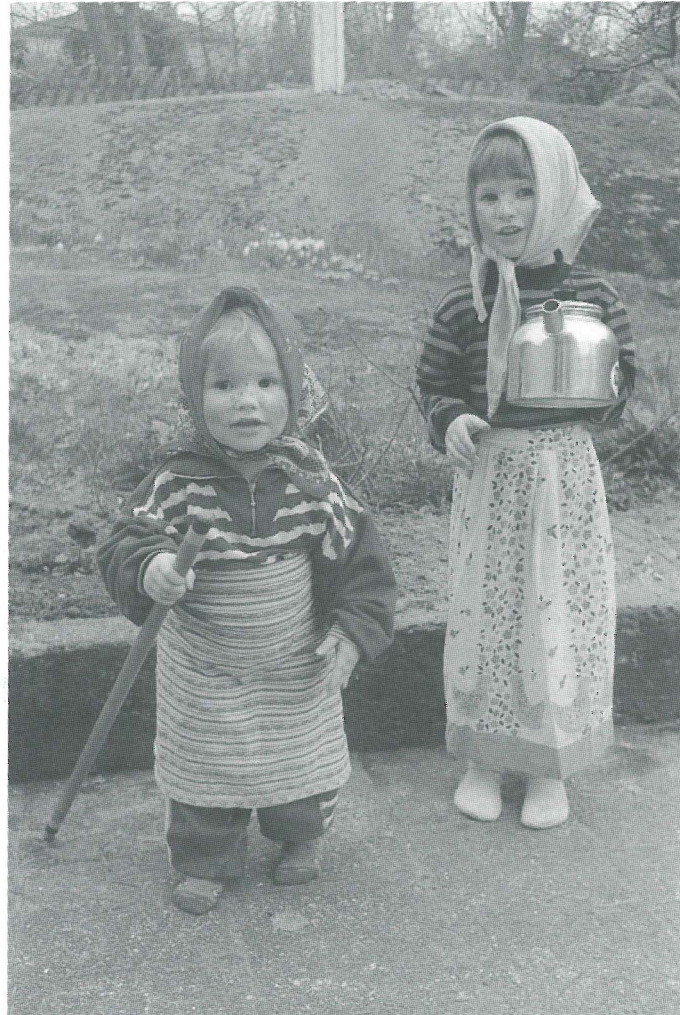




窓

ポスク

ポスク:スウェーデン語でイースターの意



長く暗い冬を終え、そろそろ春らしい陽気を告げるポスク。女の子たちが、ポスク前日に魔女に扮し、近所にお菓子をもらいに行きます。こんなに可愛らしい魔女ならたくさんお菓子をあげてしまいそうです。

ポスク Photo/dill com(中嶋千絵)

スウェーデン社会研究所 所報

No.320

2001年5月25日発行

発行所: 社団法人スウェーデン社会研究所

〒105-0013東京都港区浜松町1-8-1

(株)科学新聞社内5階

Tel. 03-5776-1835 Fax. 03-5776-1836

URL <http://www.sci-news.co.jp/sweden/>

発行人・編集責任者: 川崎一彦

Publisher&Editor in Chief: Kazuhiko Kawasaki

編集: 松元さざり

Editor: Sagiri Matsumoto

■目次

ニュース.....2

Norway Topic-①ノルウェー王国ホーコン王子婚約問題より ②ノルウェーのイースター(復活祭)休暇より/スウェーデンニュース

研究紹介.....4

北欧諸国の女性とEU

サロン.....6

ルンド滞在記-Vol.2/スウェーデン社会研究月報について/やさしいスウェーデン語・ミニ講座

JISSインフォメーション.....8

平成13年度理事会及び通常総会報告/イベント情報

シリーズ.....10

北欧における日本関連大学および研究所の紹介-1
・ストックホルム商科大学欧州日本研究所

Norway Topic

大橋照美

大橋照美 ● Ms. Terumi Ohashi
ノルウェー体育大学特殊教育分野
障害者スポーツ指導コース

ノルウェー王国
ホーコン王子婚約問題より

●The Problematic Engagement of Crown
Prince Haakon of Norway

20世紀末から21世紀にかけてノルウェー王室に衝撃のニュースが飛び込んだ。1999年秋、ノルウェー王国王子ホーコン(27)はメッテ マーリット・チェッセン ホイバイ(27)に出会い、直後王子のマンションで同棲を始め、2000年12月1日、ノルウェー国民の懸念の中、婚約した。なぜなら彼女は4歳になる男の子、マリウスのシングルマザーであり、また、彼女の元夫は麻薬売買者であり、警察のブラックリストの1人である。さらに、彼女の両親も離婚しており、実父は元アルコール中毒者で現在は国からの生活保護で生計を立てている。メッテ自身もソフトポルノビデオ女優歴もあり、世界でも異例の経歴、家柄を持つ女性の王室入りとなる。結婚儀式は2001年8月25日にオスロで行われる予定になっている。

ノルウェー国民の特に高年齢層では、のちに彼女が王妃になることに対し、反対の意見が今もなお耐えない。しかし、10代、20代層の意見では、王子が誰を選ぼうと、彼の自由だ、という賛成派、無関心派の声もあがっている。

多数ある問題点の1つには、彼女の息子、マリウスの存在である。彼は母、メッテ結婚後も王室一族入りは認められてはいないが、現在も王子と共に生活をしており、クリスマスや大きな王室

行事にも出席をしている。実孫にはならないが、王室への出入りは認められており、ノルウェー国民の間では、いずれマリウスの母、メッテは王妃になるのであれば、のちの国王後継者にはなれなくても、彼も王

室一族入りをさせるべきでは、という意見もある。しかし、マリウスは現在も実父(麻薬売買者歴を持つ)と月に何度かは会っており、また、血筋の関係などからも、彼が王室一族入りする事に懸念、反対を示す国民の意見が圧倒的である。

ホーコン王子はスニーカー、トレーナーが代名詞の庶民派王子と言われている。また、数年前になるが、ノルウェーの建国記念日(国の盛大な式典)に留学先のアメリカより帰国しないこともあり、あまりのラフさに、国民の高年齢層では、王子は次期ノルウェー国王になる資格がない、という声もよく耳にする。その王子が、メッテとの婚約でさらに国民の批判を買うのは、当然かもしれない。

数々の問題点を残してはいるが、8月には異例の履歴を持つメッテと王子の結婚はすでに決まっており、準備は着々と行われている。果たして、ノルウェー国民はこの儀式に心から祝福できるかどうか疑問である。

(Magazine/se,hjemme,Newspaper/Aftenposten より)

ノルウェーの
イースター(復活祭)休暇より

●Easter holiday of Norway

イースター(復活祭)とはキリストの復活を記念する祭典である。祭日は、春分後最初の満月のあとの日曜日に定められており、今年は4月15日(日)となっている。ノルウェーの学校では4月9日(月)より約1週間のイースター休暇(春休み)となる。職場では4月12日(木)より16日(月)まで正式な休みとなっているが、前後あわせて約1週間休みを取る人も増えている。今回はノルウェー人のイースター休暇の過ごし方を紹介したい。

ノルウェーの新聞(4月3日付)によると、毎年約20万人から30万人がイースター休暇中に山へ出かけ自然を満喫するとのことである。多くのノルウェー人は山に別荘を持っており、休暇中、スキー(クロスカントリースキー、アルペンスキー)などを楽しむ。また、自己所有していない人も、多

1822年に着工、1848年に完成した
ノルウェー、オスロにある王宮



数の私営の別荘や、ノルウェー観光協会(国営)が所有する373ある別荘を利用している。特にアルペンスキー場近くの別荘が人気を集めており、6カ月以上前から予約をする必要がある。

また日本のゴールデンウイーク休暇と同様、ノルウェーでも多くの人々が休暇を利用し海外に出かける。1998年度の調べでは4日以上休暇を取る人のうち約20%は海外へ出かけたという結果となっている。2001年度のイースター休暇で人気を集めている国は、スペイン、イタリア、ギリシャなどの南国(ノルウェーより)であり、今年は約4万人が出かけるとのことである。友人によると、冬の厳しいノルウェーを脱出し、思いっきり太陽を浴びるためだそう。この時期ノルウェーのオスロでは平均気温5度、北ノルウェーのトロムソではマイナス1度に対しギリシャのアテネでは約25度である。参考までにノルウェーの旅行会社で

出しているギリシャへのパック旅行代金は航空券とホテル(6日分)を含め1人約7万円となっている。その他、ロンドン、パリ、ローマ、プラハ、ブタペストと行った、ヨーロッパの大首都へ出かける人も多い。こちらも参考までにロンドンへの旅行代金は、航空券とホテル(4日分)を含め1人約5万円、ローマ約6万5千円となっている。こちらも早くからの予約が必要となっている。ノルウェーでも格安ツアーが人気を呼んでいる。

最近では山も海外もいいが、やはり休暇中、家でゆっくり過ごす人達も増えてきているそうである。イースター休暇中はクリスマスと同様、ほとんどが閉店、閉館するため観光客泣かせ、町中が静まり返る時期である。この時期のノルウェーへの旅行なら、是非山へスキーをお勧めしたい。

(Newspaper /Aftenposten [4.3.2001], VG [4.6.2001],参照)

水の都ストックホルム

News of Sweden

スウェーデンニュース

2月 februari

●TeliaとTelenorの合併に向けて、ある会社が経済的・戦略的なアドバイザーとして、Näringsdepartementet(産業省)に雇われた。契約によると、もし合併が行われた場合、約85ミリオンKrのボーナスが支払われる予定だったが、1999年12月に失敗した。しかし、2000年1月にボーナスの100%が支払われた。

●Gulbagger映画祭で、「Sånger från andra våningen」のRoy Andersson監督が受賞。

●1999年秋、ストックホルムのEU事務所から、不法な給料が支払われた事実が暴かれた。その総額は、170,000sKrにもなるだろう。

●Jönköpingの18世紀の文化遺産が焼け落ちた。

●1986年2月28日、Olof PalmeがSveavägenで殺されて今年で15年経つ。警察は依然犯人を捜している。

3月 mars

●11-13日ストックホルムの一部の地域で、地下鉄のケーブル火災が原因による停電があ



った。コンピューターとエレクトロニック関連の会社が集中する地域だったために深刻な影響があった。

●23日Swedenは、感染(伝染)された国からの肉(豚と羊)の輸入をストップした。

●25日Swedenは、Schengen条約に加入した。

Scandinavian Women
and EU

北欧諸国の女性と EU

藤女子大学文学部
文化総合学科講師

五月女 律子

五月女 律子 ● Ms. Ritsuko Saotome
Fuji Women's College,
Assistant Professor

■ はじめに

デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンの北欧4カ国は、これまで他のヨーロッパ諸国と緊密な関係を築いてきた。しかし対EC/EUに関しては、4カ国が常に共同歩調をとってきたわけではないことは、周知の通りである。しかし、北欧諸国にはEU問題に関して共通点が存在する。それは、北欧諸国においては、EUに対して否定的な見方をする女性が多いことである。女性は各国の人口の約半分を占めるグループであるため、女性の動向は各国の対EU政策に大きな影響をあたえたと考えられる。では、北欧4カ国の女性のEUへの態度とその背景には、具体的にどのような共通点が見られるのであろうか。

1. 北欧各国の女性のEUへの態度

女性のEUへの態度を最も直接的に見ることができるのは、EC/EUに関する国民投票の結果や各種世論調査である。1990年代になると、特に女性のEUへの態度に男性と異なった傾向が見られるようになった。

デンマークでは1990年代には、EC/EU統合の深化に関する国民投票が行われた。1992年6月のマーストリヒト条約に関する国民投票では、反対票が過半数を占めたが、反対票を投じた男性が47%であったのに対して、女性は54%であった。つづく1993年5月のエディンバラ合意に関する国民投票では、全体では賛成が過半数であったが、反対票は男性が37%で女性は48%であった。2000年9月に行われたユーロ導入に関する国民投票では、反対が賛成を上回るという結果であったが、そこでも直前の世論調査で男性は6割が賛成なのに対して、女性は反対が6割以上であった。

フィンランドでは、1994年10月に行われたEU加盟を問う国民投票では加盟が可決されたが、男性の賛成票が61%なのに対して、女性の賛成は54%に止まっていた。国民全体としては賛

成派の多いフィンランドでも、男性よりも女性のほうがEUへの懐疑心が強いことが、他の調査でも明らかにされている。

1994年11月のノルウェーでのEU加盟に関する国民投票でも、EUに対する態度では女性と男性の間で顕著な違いが見られた。国民投票の結果は国民全体ではEU加盟反対が過半数を占め加盟は否決されたが、反対票は男性48%であったのに対して女性は57%であった。また、どの年齢層でも女性の反対が男性の反対を上回っていた。

スウェーデンでは、1994年11月にEU加盟を問う国民投票が実施されたが、全体では賛成が過半数で可決された。しかし男女別で見ると、反対票は男性が42%、女性が52%であり、女性は過半数が反対票を投じていた。2000年に行われたEUに関する調査でも、様々な社会経済的分類のすべてで、女性の反EUの割合は男性よりも高くなっている。

このように北欧4カ国の国民のEUに対する態度を男女別で見ると、どの国においても男性よりも女性の方が反EU傾向が強いという共通点が見られる。また、どのような社会経済的分類でも、同じ分類の男性と比較した場合、女性の方がEUに対して否定的な態度をとる割合が高いのである。では、この女性の反EU傾向の背景には何があるのであろうか。

2. 女性の反EU傾向の原因

北欧諸国でのEU加盟に関する論争では賛成・反対にかかわらず、男女とも経済と意思決定の民主性についての議論が中心を占めていた。しかし、特に女性の間でEU加盟反対理由として挙げられていた論点は、以下の4点に集約できる。まず、反EUの原因の1つとして、EUの水準に合わせることによって、自国の社会福祉レベルが低下することが懸念されていたことが挙げられる。社会福祉の低下は必ずしも女性のみにも不利益をもたらすものではない。しかし、女性の方が一

一般的に男性よりも社会福祉の問題に関心を持ち、EU加盟によって社会政策が後退すると考えていたことから、反EUの態度を採る傾向があると考えられる。

第2の原因は、環境問題である。環境の悪化も性別に関係なく全ての人に影響を及ぼすが、環境保護に関しても関心の度合いは女性の方が高い。環境保護に関しては、北欧諸国の政策が最先端であると考えられているため、EUの基準に適応させると環境保護政策が後退する可能性があることに、女性は不安を感じていたのである。

第3の原因は、公共部門での雇用の問題である。EUの社会政策の水準に合わせることによって公共部門が縮小され、公共部門での雇用が減少するのではないかという不安があると考えられる。北欧諸国では女性の雇用は公共部門(特に福祉関係)によって支えられている傾向が強いため、共通の懸念が北欧諸国の女性の間に見られたのである。

最後に、女性の特有の問題としては、社会での女性の地位の低下という問題がある。これは男性には見られない理由であった。北欧諸国のEU反対派の女性は、EU加盟は男女平等に関してはネガティブに影響すると考えていたのである。

■ むすびにかえて

北欧4カ国の女性が反EUの態度を採る傾向が強い理由として、各国で程度の差こそあれ上記の4点が共通しているといえる。EUに適応させることによって既存の社会福祉システムが後退すると、それが女性にネガティブな影響を与え、また、EUに合わせた政策によって環境問題の悪化の可能性があることと懸念されていたことから、女性はEUに対して否定的な態度をとる傾向が強かったと考えられる。

しかし、EUでも社会、環境、女性問題の分野の政策に、変化の兆しがあらわれてきている。

1999年5月1日に発効したアムステルダム条約では、男女平等や環境問題への対応がEUの政策目標として規定された。そして2001年前半のEU議長国になったスウェーデンは、2001年1月の会議で早速、女性に関する政策にEUが焦点を当てることを提案し、環境問題についても、EUの拡大、雇用政策とならぶ優先課題として積極的に取り組む姿勢を見せている。今後のEUが社会、環境問題、男女平等に関する政策を充実させる方向に向かえば、北欧諸国の女性のEU支持率が上がる可能性もあるかもしれない。

● デンマークにおけるエディンバラ合意に関する国民投票と、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンにおけるEU加盟に関する国民投票の結果(全体と男女別[%])

		賛成	反対	白票
デンマーク	女性	52	48	
	全体	56.7	43.3	
	男性	63	37	
フィンランド	女性	54	46	
	全体	56.9	43.1	
	男性	61	39	
ノルウェー	女性	43	57	
	全体	47.7	52.3	
	男性	52	48	
スウェーデン	女性	47	52	1
	全体	52.3	46.8	0.9
	男性	57	42	1

【注】「全体」は最終投票結果に基づくものであり、男女別のデータは出口調査または事後調査の結果である。

【出典】Tor Bjørklund, "The Three Nordic 1994 Referenda Concerning Membership in the EU," *Cooperation and Conflict*, Vol.31, No.1, 1996, p.26; Paul Luif, *On the Road to Brussels*, Braumüller: AIIA, 1995, p.327; Lars Svåsand and Ulf Lindström, "Scandinavian political parties and the European Union," in John Gaffney (ed.), *Political Parties and the European Union*, London: Routledge, 1996, p.212.より作成。

サロン ▶ ルンド滞在記-Vol.2

スウェーデン社会研究月報について

やさしいスウェーデン語ミニ講座



ルンドの花屋さん

Living in LUND ルンド滞在記-Vol.2

矢幅さやか Ms. Sayaka Yahaba
ルンド大学ISUプログラム留学生

ルンドに到着してから1週間経った頃、片道25分の通学に疲れ、やっと自転車を買いました。新しい学期がスタートし、沢山の交換留学生が押し寄せているだけに、今ごろ「やっぱり自転車は必要だよな・・・」なんてノコノコ自転車屋さんに行っても、なかなか掘り出し物には巡りあえません。新品ならば話は別ですが、中古で安く、でもカッコイイのがいいな・・・などと甘いことを考えていると、いつまでたっても徒歩のまま。何軒も自転車屋さんを見て周り、結局700クローナ(約一万円)で手を打つことにしました。本当は、この半額で探していたんですけどね。

さてさてこの自転車、確かにカッ

コイイのですが、足長の北欧人向けでサドルの高いこと!両足は勿論のこと、片足も危なっかしいのです。その上、日本の自転車のようにブレーキがハンドルのそばにはついていません。ペダルを逆に回すと減速する仕組みになっています。そして右側走行。歩道は走ってはいけない。一体どこに神経を集中して良いのやら、慣れるまでは本当に大変です。そして車と同じ扱いの信号待ち。寮の近くにある大きな交差点では、右から『右折自動車レーン』『直進自動車レーン』『直進自動車レーン』というように線が引かれています。構造上、轢かれることはないはずなのですが、車と車の間で信号を待っている私の心臓はバクバクです。足はまともにつかず、フラフラ。大きなトラックがコートをかすめて通り過ぎて行くこともあります。前から自転車が来た時には、当然お互いが

右端に寄り、距離をとることになるのですが、日本での自転車生活が染み付き、まだまだ神経の行き届かない私は、とっさに左側(相手と同じ方向)へ寄って、あわや接触!!なんてこともありました。便利なはずの自転車通学は、まだまだ快適とはほど遠いのであります。

それでも私が無事生きていられるのは、ルンドの交通事情にあります。全ての道路は歩行者・自転車優先が当たり前になっていて、車はいつでも止まれるスピードで走っています。渡ろうかな・・・と思って立ち止まり、反対側をただけで、車は止まってくれます。そこまで優しくされると自転車に乗っている時の私も、歩行者に自ずと優しくなる。なるほど、優しい心は伝播するものなのですね。ルンドの人々が優しく穏かでのんびりしている理由が、少し分かった気がしました。

Coffee-Break

やさしいスウェーデン語 ミニ講座

スウェーデンを旅していても心地よいのは、きっとスウェーデン人が英語が堪能であるからではないか、と思うことがある。スウェーデン語で尋ねても、あきらかに旅行者であるとみると、英語で答えてくれる。しかし、スウェーデン語が多少出来ると分かると、とても喜んでくれる。単語だけでもいいから簡単なスウェーデン語を覚えてスウェーデンを訪れよう。そうすれば、スウェーデン人ともっとコミュニケーションがとれるのではないのでしょうか?これから、簡単なスウェーデン語の表現を紹介していきます。スウェーデンの最高にきれいな季節が、もうそこまでやってきていますね。

【基本表現】

おはよう: God morgon(グモロン)、こんにちは: God dag(グッダーグ)、※ほとんどHej(ヘイ)でOKです。こんばんは: God kväll(グックヴェール)、おやすみさない: God natt(グッナット)、さようなら/じゃーね: Hejdå(ヘイドー)、じゃーまたね: Vi ses(ヴィセス)、はい: Ja(ヤー)、いいえ: Nej(ネイ)、ありがとう: Tack(タック)、ありがとうございます: Tack så mycket(タックサミック)、すいません: Ursäkta mig(ウシエクタ メイ)、ごめんなさい: Farlåt mig(フェロートメイ)、どういたしまして: Var så god(ヴォルショグ)、私の名前は～です: Jag heter～(ヤーヘーテル～)、私は日本から来ました: Jag kommer från Japan(ヤーコンメ

ルフロンヤーパン)、私はスウェーデン語が話せません: Jag kan inte tala på Svenska(ヤーカンインテターラポスヴェンスカ)、分かります: Jag förstår(ヤーフォシュトル)、分かりません: Jag förstår inte(ヤーフォシュトルインテ)

● スウェーデン語でこの表現はどう言うの??などスウェーデン語に関わるご質問をメール(jiss99@tkg.att.ne.jp)にて募集します。「スウェーデン語教えて!」と明記の上ドシドシ送って下さい。お待ちしております。

スウェーデン社会研究 月報について

坂田 仁 Mr. Jin Sakata
JISS会員 (常磐大学教授)

スウェーデン社会研究所が発足したのは昭和42年10月23日であった。私が入会したのはそれより後のことで、鳥居坂の国際文化会館で行われた開所式には参加していない。しかし、その様子は月報の1号に細かく記されている。この頃月報は、「スウェーデン社会研究所所報」であった。

月報の名称が変わったのは11号からで、それまでの不定期刊行を毎月定期的に刊行する意図があったものと思う。

筆者は、月報を1号から所持しているが、1号には贈呈のゴム印が押されている。つまり1号が出た時はまだ会員ではなかったのである。

私が入会したのがいつの年の何月であったのか記憶にない。その頃スウェーデンの大学から多数の教員、学生が日本を訪問し、その大衆的会合が同じく鳥居坂の国際文化会館で開かれたことがあり、これに筆者は多分会員として参加しているはずなので、この頃であったと思う。月報4号は、「スウェーデン教師、学生大挙して訪日」という見出しで昭和43年7月24日に訪問団が羽田に到着したという記事をトップ記事で伝えている。ついでにいうと、その次の5号のトップ記事1968年度のノーベル文学賞を受けた故川端康成さんのスウェーデン大使館での祝賀パーティの様態を伝えるものである。その同じ号に、丸尾直美助教授の「スウェーデン経済政策の最近の動向」、高須裕三教授の「スウェーデン経済史序論」、原田実名誉教授の「エレン・ケイの著作についての思い出」、西村光夫所長の「スウェーデン訪問の日記から」、

須藤真志講師の「1968年スウェーデンの総選挙」、林宏講師の「大学教育の実態」及び石渡利康講師の「スウェーデン法入門」が掲載されている。

次の6号から7号にわたって、アルムクピスト大使の論文「Swedish Neutrality Policy and Its Historical Background」が掲載されている。その頃の研究所の活発な活動がしのばれるのであるが、その中にひとつ面白い記事があるので紹介しておきたい。

それは、月報に名称が変わった直後の月報2巻2号に出ているもので、「西紀2000年のスウェーデン」というタイトルで、著者は石渡利康講師である。それは、スウェーデンの未来学に関する「西紀2000年のスウェーデン」というトム・セルランデル氏の編集したインタビュー記録の紹介である。それによると、2000年のスウェーデンは後期産業社会に入り、平均年収60,000クロネ、妊娠から墓場まで全てデータで片づけられ、機械化のおかげで新しい価値観が生まれるようになるというのである。更に、エリートによる独裁の傾向が現れ、インテリゲンストと高等の教育を受けた新しい上層階級(ヌトクラーフト)がスウェーデンの権力保持者になる。平等化運動が進み、皆が高額所得者になり、教育と知性が社会における人間のポジションを決めるだろうとされている。「データ」(コンピュータを意味すると筆者は推測する。)が産業、行政の分野で主要なものになるので、労働の中心は、研究、開発、計画に移行するといふ。これが前提になって、エリートをトップとする新しい階級社会が生み出されるのである。従って、経済的には何ら圧迫も影響も受けないが、心理的に影の状態におかれる人々が生み出されるといふ。これがクート・サミュエルソン学長の意見として紹介されている。

紹介は更に続けて、LOが小団体と化すること、LOとTCOが合併すること、SACOが立場を強化することを予測している。また、国際的には、米ソ対立の構図が薄れ、われわれが一つの世界に生きるという感覚が強まること、経済的、技術的発展が政治体制の相違とは無関係に同様の社会的文化的環境を作り出す可能性があること、発展途上国の発展がそれらの諸国間の戦争の危険を増大すること、欧州の経済的・政治的統合がスウェーデンの安全政策上の基本線をかえさせるかもしれないこと、スウェーデンの核兵器所有もあり得るといふこと、がそれぞれ意見として紹介されている。

月報の僅か1頁の紹介であるが、現在、2001年に生きている私たちから見て、当たっていることも当たっていないこともあって非常に面白い。古い雑誌というのは、それなりに存在価値のあるものであること、を改めて知らされるのである。月報は、筆者の手元で現在5冊の分冊にして、昨年(2000年)の最後の号である318号まで製本されている。号数あるいはタイトルを指定してご連絡を頂ければ、コピーをとって会員の方にお送りすることができるということをつけ加えてこの稿を閉じたい。

スウェーデン社会研究所所報第1号



スウェーデンのクリスティーナ王女をお迎えして 「スウェーデン社会研究所」の開所式を挙



大塚の開所式祝辞
左より クリスティーナ王女、チェルバリー公使、ニールスウスタ、アルムクヴィスト大使、大平理事長、西村所長



書籍の寄贈式
王女より大平理事長へ

爽やかな秋晴れの昭和42年10月23日午後2時より、森市島居坂の国際文化会館において、「スウェーデン社会研究所」の開所式が開かれた。日本・スウェーデン両國人、合わせて約100人が参加したが、この日の正装はスウェーデンのクリスティーナ王女のご臨臨と、同王女の御手による当研究所への書籍寄贈式であった。

2時すぎ、西村所長より参加者に対し、簡潔な開所式の挨拶があった後、大平理事長および西村所長が(松前会長はヨーロッパに出張中にて不在)同会館玄関にて王女をお待ちするうち、定刻2時、王女ご到着、アルムクヴィスト大使と大平理事長とご先導にて、同会館一階の式場にご登壇になった。

ここで大平理事長より挨拶の通り、研究所の目的・活動に関する説明を申し上げ、ついでアルムクヴィスト大使より別紙のようメッセージが読まれた。大使は王女のご出席に感謝されたのち、当研究所創立関係者たちの功勞を讃え、さらにスウェーデン政府が当研究所に対する援助として約170万円相当額を来年度予算案に計上するに決定した旨のホットニュースを伝えた。しかも最後に、この研究所創立が全く日本側の自発的意志によるものであること、および日本側の推進者たちは、スウェーデン大使館やスウェーデン当局に対し何ら要求もまいごは全くしなかったことを強調されたことは、とくに稱賛すべき点であると思われる。

ついで王女は起立され、当研究所の創立を祝し今後を激励する言葉を述べられ、白い包紙に書かれたリボン十字に結ばれたスウェーデン政府より当研究所に対する寄贈品を贈り大平理事長にお手渡された。

大平理事長は謹んでお受けし、お礼の言葉を申し上げ、そのあと当研究所からの生け花の本を王女に贈呈した。

このあと茶室にうつり、所長が研究所の世話役や主賓を王女へご紹介申し上げた。王女は会館の日本式庭園にお出ましになって気楽に参加者たちと会話をなさった。そして3時20分、理事長、所長のお見送りの權につきる予定の場所へご出張になり、当日の式次第は予定通り無事終了した。

事務局より

平成13年度理事会
及び通常総会報告

3月30日(金)、東京・霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館で、理事会及び通常総会が開催され、「平成12年度事業報告並びに収支決算の件」、「平成13年度事業計画並びに収支予算案の件」等が審議され承認されました。

収支計算書

(平成12年1月1日～平成13年3月31日)

I [収入の部]		単位: 円
会費収入	6,764,000	
管理収入	476,916	
事業収入	2,953,880	
その他	1,290,797	
小計	11,485,593	
前期繰越	4,767,867	
収入合計	16,253,460	
II [支出の部]		単位: 円
管理費	7,138,710	
事業費	2,697,290	
小計	9,836,000	
前期繰越	6,417,460	
支出合計	16,253,460	
当期収支差額	1,649,593	

平成12年度事業報告

【講演会】

- 2月25日(金)「スウェーデン北部暮らし」、講師: 中島優氏、会場: 事務局内
- 6月6日(金)「リハビリテーションの先駆者たちから学ぶ」、講師: マルガレータ・ニルソン氏、河本佳子氏、会場: スウェーデン大使館オーデトリウム
- 7月5日(水)「スウェーデン社会研究所の今後の方針」、講師: 松前紀男氏、会場: 東海大学湘南校舎
- 9月5日(火)「ノキアの目指すモバイル情報社会」、講師: ヘイッキ・カスコ氏、会場: FM東京ホール
- 11月10日(金)「情報は北から」、講師: 上瀧實氏、会場: スウェー

デン大使館オーデトリウム

- 11月11日(土)「若者の結婚観」、第6回日本・北欧学生シンポジウム、JISS後援、会場: 北海道東海大学国際交流会館
- 11月18日(土)「スウェーデン・エコロジカルな暮らし」、講師: アキコ・フリッド氏、会場: 事務局内
- 平成13年2月26-27日「グルンドヴィと教育」教育シンポジウム、JISS後援、会場: 東海大学ヨーロッパ学術センター

【出版活動】

- 会報「JISS」発行(年6回)

【スウェーデン語講習会】

- 1月25日(土)～7月1日(土)「初級-1」
- 4月1日(土)～7月1日(土)「初級-1」
- 10月5日(木)～平成13年2月3日(土)「初級-B1、B2、上級」

【その他】

- 1月22日(土) 企画運営委員会、於: 霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館
- 3月22日(水) 理事会及び通常総会、於: 霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館
- 6月20日 外務省へ定款一部変更許可申請提出
- 7月4日 外務省より定款一部変更外務大臣認可受領
- 9月28日(木) 臨時総会、於: 霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館
- 11月21日(火) 評議員会、於: 霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館
- 平成13年2月15日(木) 日本・スウェーデンサイエンスクラブ立上げの会、於: 霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館
- 3月5日(月) 会報編集会議、於: 霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館

平成13年度事業計画

【継続事業】

- 会報「JISS」の内容充実を計る為、年4回(1回500部)発行とし、会員及び関係者に配布する
- スウェーデン語講習会
- 講演会・研究会の主催、共催、後援
- 学会及び関連する研究情報の紹介
- ホームページを通して、関連情報の発信(講演会・研究会・北欧関連情報等)
- スウェーデン語学留学ガイドンス、各大学などの資料提供及び情報案内
- 図書貸出・閲覧などに伴わない図書・資料の収集・整備。書籍割引販売、新刊図書の紹介など
- ホームページなどを通して会員勧誘

【新規事業】

- デンマーク語講習会を開講する
- スウェーデン(又は北欧各国)の様々な興味ある事柄を取上げての連続セミナー
- スウェーデン語翻訳の依頼の増加に伴ない、対応出来る環境を整える
- 「北欧ハンドブック(仮)」製作・出版予定
- 日本・スウェーデンサイエンスクラブの業務をJISS事務局内で行う

編集余話

- 今回松前理事長および北海道東海大学の千葉さんの御尽力により、所報のレイアウト、デザインを一新しました。今後頻度は季刊となりますが、クオリティを高めたい、という方針です。会員の皆様のご意見ご感想をお聞かせ下さい。(川崎一彦)
- 今後はもっと会員の皆様のご意見を取り入れ、紙面の充実を計りたいと思っております。宜しくお願いいたします。(松元さざり)

会員の動向

【新規会員】

平成12年9月～平成13年3月

●個人会員

相原雪乃、上松佑二、阿部望、大村聡、岡田春菜、落合由紀子、加藤園子、小池浩一郎、里深文彦、須永昌博、墨谷和則、田中秀児、速水望、平野富士男(学生→個人)、福井信子、前島巖、山下泰文、福井心司(18名)

●学生会員

小山哲平、照屋亜月、山口さやか(3名)

●法人会員

望星サイエンス(株)、あさひ銀行新都心営業部、(株)霞ヶ関東海倶楽部、(株)港北、(株)札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部、(有)静岡富士サービス、(株)ジェー・シー・シー、秀和ビルメンテナンス(株)、(有)湘南富士サービス、医療法人社団松和会、(株)新生銀行、(株)第一勧業銀行北沢支店、東海ウイング(株)、東海建設(株)、(有)東京フジセンター、(株)東京三菱銀行新宿新都心支社、(株)富士サービス(17社)

【退会会員】

平成12年9月～平成13年3月

(名称省略)

個人会員(33名)、学生会員(3名)

法人会員(1社)

新任役員

【評議員】

●五月女 律子 氏

1996年8月ストックホルム大学国際大学院修了、2000年3月東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻国際関係論コース修士課程単位取得満期退学、現在藤女子大学文学部文化総合学科専任講師。

●波多野 裕 氏

1988年東芝宇宙開発事業部事業

部長、1992年エリクソン東芝通信システム(株)副社長、現在日本エリクソン(株)常勤監査役。

●カイレイ ニウス 氏

在日スウェーデン大使館報道参事官。

【理事】

●須永 昌博 氏

1970年～2000年4月スウェーデン大使館科学技術アタッシュ、現在(株)ノルディック商会代表取締役。

●加藤 康宏 氏

1967年科学技術庁入庁、2001年1月科学技術庁事務次官退任、現在文部科学省顧問。

●池田 研二 氏

1996年～1998年3月東海大学開発技術研究所教授、現在東海大学開発工学部医用生体工学科教授。

●遠藤 勲 氏

2000年10月理化学研究所退職、埼玉大学退職、現在宇都宮大学教授、理化学研究所主任研究員。

イベントの御案内

■ 記念講演会「日瑞間の科学技術政策の現状」開催

日時●6月13日(水) 午後2時～6時

会場●スウェーデン大使館 オーディトリウム

講師●佐藤 禎一 氏 日本学術振興会理事長

レナート・ステンベリー 氏 スウェーデン大使館
科学技術部参事官

遠藤 勲 氏 宇都宮大学農学部教授

スウェーデンに留学した日本人科学者を中心にした会、「日本スウェーデンサイエンスクラブ」の事務局をJISSが引受けることとなりました。また、文部科学省は、日本学術振興会を通じて、6月にストックホルムに海外研究連絡センターを開設することとなりました。これを記念し講演会を開催致します。

◎講演会后、懇親会を予定しております。

参加費：会員無料/非会員の方はお問合せ下さい

定員：先着100名まで

お問合せ先：JISS事務局 (TEL 03-5776-1835)

■ 2001・スウェーデンフェア開催

6月18日(月)～23日(土) ★20日休み

(6/18, 19, 21, 22日: 14時～18時, 23日: 13時～18時)

JISS事務局内にて、「スウェーデンフェア」と題し、書籍やCD、絵葉書や額、紅茶や雑貨などを販売致します。スウェーデン色満載のこの機会にぜひお越しください。

●スウェーデン関連書籍販売/スウェーデン語テキスト、辞書、絵本、写真集などスウェーデンの本がたくさんあります。

●額販売/スウェーデンの夏至祭や街並みをかわいいうちに添えて販売します。全てオリジナル一品品。

●雑貨販売/スウェーデンの民芸品などの小物。

★期間中、図書閲覧室を開放します。



シリーズ ▼ 北欧における日本関連大学および研究所 紹介シリーズ第1回

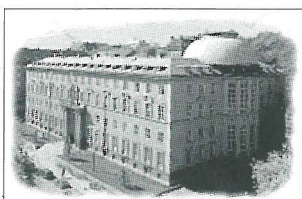
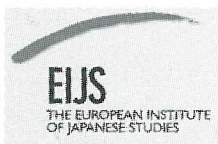
THE EUROPEAN INSTITUTE
OF JAPANESE STUDIES

ストックホルム商科大学
欧州日本研究所

President of EIJS is
Professor

Magnus Blomström

Magnus Blomström ● マグヌス・
ブロムストローム
ストックホルム商科大学・教授、欧州日
本研究所所長



The mission of The European Institute of Japanese Studies (EIJS) is to serve as a major centre for research on the economics and societies of Japan and East Asia, with particular emphasis on issues, which impact on Europe. Established in Stockholm in September 1992 through all endowment of funds from Swedish and Japanese business and the Swedish government, EIJS operates independently of economic and political interest groups as an autonomous research centre within the Stockholm School of Economics.

EIJS' five areas of activity are: research, education, information, public seminars, and executive education. With research and education as the core, and in seeking to contribute to better understanding of Japan and its role in the world economy, EIJS is also active in providing value-added information services, arranging conferences, workshops and seminars, disseminating research results, and participating in public policy debate.

The Euro-Japanese relationship is often described as the weak link in the world economy. A major goal of EIJS is to strengthen this relationship and to provide the means for Europe and Japan to learn more about and from each other.

EIJS aims to act as a platform for research and educational programmes, focusing on the dynamics of Japan and East Asia and on the links between Japan / East Asia and Europe.

EIJS actively contributes to the integration of the world economy by interpreting, analysing, and disseminating information to decision-makers and opinion leaders in both the public and private sectors. In order to facilitate this vital East-West dialogue, EIJS opened a liaison office in Tokyo in October 1997.

■ Stockholm School of Economics
Sveavägen 65, Box 6501, 113 83
Stockholm
Phone: 08-7369360, Fax: 08-313017,
<http://www.hhs.se/eijs/>

● 今回から北欧における日本関連の大学、学部や研究所の紹介シリーズを企画しました。第1回はストックホルム商科大学の欧州日本研究所です。今後取り上げるとよい大学、研究所についてのご提案、ご希望などを歓迎します。編集部までご連絡下さい。